

**穴吹不動産流通(株)鹿児島店****「市況レポート(2022年11月)」**

南日本新聞の記事によると、鹿児島市のサッカー等スタジアム整備地は、本港新町のドルフィンポート(DP)跡地一帯(県有地)が難しい場合、住吉町15番街区か浜町バス庫(国・民有地)のどちらかとなるそうです。先進事例などに基づく需要予測調査で、住吉は維持管理・運営の年間収支が唯一の赤字、浜町は中心市街地への経済波及効果が半減といった課題が判明されたそうです。整備地選びは難航する可能性がでており、市長は整備費や経済効果を根拠に住吉を上評価し、県もスタジアムの検討余地を残しているそうです。ただ、敷地の狭さが障壁となり、ピッチやスタンド用地の確保のために海側に910平方メートルの拡張が必要で整備費は66億円増えるそうです。スタジアムは飲食店や物販店などが入る複合施設を併設されるとのことで今後の動向が気になります。

**2022年11月日本銀行鹿児島支店 鹿児島県金融経済概況より**

【概要】 鹿児島県の景気は、持ち直している。 すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、持ち直している。観光は、着実に持ち直している。住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、高水準で推移している。生産は、持ち直しの動きが一服している。企業部門の動向を短観(9月<鹿児島・宮崎両県集計分>)でみると、景況感は、製造業を中心に小幅に悪化した。設備投資は、増加している。こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体として緩やかに改善している。

【各論】 1. 個人消費 百貨店・スーパー販売額は、前年を上回って推移している。家電販売額は、前年を下回って推移している。乗用車新車登録台数(含む軽自動車)は、前年を上回った。 2. 観光 主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を上回って推移している。 3. 公共投資 公共工事請負金額は、前年を上回った。 4. 住宅投資 新設住宅着工戸数は、分譲を中心に前年を下回った。 5. 生産 鉱工業生産指数(季節調整済)は、食料品、汎用・生産用機械を中心に前月を上回った。 6. 雇用・所得環境 有効求人倍率(季節調整済)は、上昇した。現金給与総額は、前年を下回って推移している。常用労働者数は、前年を上回って推移している。 7. 物価 消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は、前年を上回って推移している。 8. 金融面 預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。企業倒産件数は、低水準で推移している。

【まとめ】鹿児島県内におきまして、景気は持ち直され、住宅投資も横ばい圏内の動きとなっているとのことです。弊社ではマンションはもちろん、戸建てや土地の買取りもごさいます。空き家や空き地の管理でお困りのことがございましたら、弊社までお気軽にご相談下さい。